

めぐみイエス・キリスト教会

2021年10月24日(日)第四主日礼拝
週報「通算第580号」



2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌258「墨よりも黒き心なれど」 p. 402

【交読文】 No.12詩篇第33篇 p. 888

【賛美Ⅱ】 新聖歌172「望みも消え行くまでに」 p. 248

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.9「ひとつの心」

【聖書朗読】 使徒の働き13章1節～3節(新約p. 259下段右)

【礼拝説教】 《アンティオキア教会》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

●ポイント1. 「アンティオキア教会」の誕生について

※使徒の働き11章19節～26節「遣わされたバルナバ」(新約p.257上段)

11:19 さて、ステパノのことから起こった迫害により散らされた人々は、フェニキア、キプロス、アンティオキアまで進んで行ったが、ユダヤ人以外の人には、だれにもみ言葉を語らなかった。

11:20 ところが、彼らの中にキプロス人とクレネ人が何人かいて、アンティオキアに来ると、ギリシア語を話す人たちにも語りかけ、主イエスの福音を宣べ伝えた。

11:21 そして、主の御手が彼らとともにあったので、大勢の人が信じて主に立ち返った。

11:22 この知らせがエルサレムにある教会の耳に入ったので、彼らはバ

ルナバをアンティオキアに遣わした。

11:23 バルナバはそこに到着し、神の恵みを見て喜んだ。そして、心を堅く保っていつも主にとどまっているようにと、皆を励ました。

11:24 彼は立派な人物で、聖霊と信仰に満ちている人であった。こうして、大勢の人たちが主に導かれた。

11:25 それから、バルナバはサウロを捜しにタルソに行き、

11:26 彼を見つけて、アンティオキアに連れて来た。彼らは、まる一年の間教会に集い、大勢の人たちを教えた。弟子たちは、アンティオキアで初めて、キリスト者と呼ばれるようになった。

●ポイント2.「ニゲルと呼ばれるシメオン」と、「クレネ人ルキオ」とは？

■シメオン 『アレクサンドルとルフオスの父である彼は、主イエスの十字架をローマ兵に無理矢理に背負わせられた。このシモンこそ「ニゲルと呼ばれるシメオン」であって、ローマ人への手紙において、パウロが「ルフオスと私との母によろしく」と述べている事は容易に理解できる。と言うのは、アンティオキアでパウロは、クレネ人シモンと息子ルフオスの家に泊って世話になった、と言う事が考えられているからである』

■ルキオ 『アンティオキア教会指導者の一人で、クレネ出身である。クレネ人とは、ステパノによる迫害によって散らされた人々の宣教によってみ言葉を聞いた人たちである。ルキオはサウロとバルナバの伝道旅行派遣の為に按手をした。ルカはルキオを短縮した呼び方でもある。』

●ポイント3.「領主ヘロデの乳兄弟マナエン」とは？

■マナエン 『ヘブル語のメナヘーム(慰める者)のギリシヤ語の呼び名である。国主ヘロデ・アンティパスの乳兄弟として育てられた。ヨセフォスのユダヤ古代誌によれば、彼はエッセネ派のマナエンの子孫か、親族であると思われる。このエッセネ派のマナエンは、ヘロデ大王が幼少の頃、彼が王国を継ぐ事を預言した。そして、それが的中したので、ヘロデ大王は、マナエンとその親族と一派とを優遇したと伝えられている。』

※ヨハネの福音書4章46節～54節「カペナウムの役人」(新約p.184上段)

◎先週の礼拝メッセージの概要【ヘロデ・アグリッパ】

《紀元48年頃の世界的規模の大飢饉の時に、アンティオキア教会は、バルナバとサウロの手によってエルサレム教会に救援物資を送ります。その任務を遂行した二人は、ヨハネ・マルコを連れて戻って来ます。ルカは、この記事の間に、ヘロデ・アグリッパによる教会への迫害と、その裁きについて挿入し、言及しています。つまり、時系列が逆になっています。

今日は、それらのことを踏まえて、三人のユダヤの王と、主イエス・キリストとの関係について学びます。主イエスが、預言通りダビデの町ベツレヘムにおいて生まれた時、ユダヤを支配していたのは、ヘロデ大王でした。彼は幼子イエスを殺そうとし、ベツレヘムと周辺の二歳以下の男の子を皆殺しにします。この罪の裁きが、紀元前4年に下されます。ヘロデは生きたまま内蔵が腐って行くと言う奇病に冒され苦しみ死んで行きます。

次に、その息子ヘロデ・アンティパス。バプテスマのヨハネの首をはねた王のことです。この王は、主イエスに直接出会う事を神様に許可されませんが、彼は悔い改めようとはしません。彼は、紀元38年頃、甥であるヘロデ・アグリッパの策略によって、皇帝カリギュラから領地を没収され、妻ヘロデヤと共に追放されます。そして紀元39年、流刑地にて没するのです。

最後に、ヘロデ・アグリッパ。祖父ヘロデ大王が所有していた領地をすべて手にします。彼は、紀元44年頃に、エルサレム教会と使徒への迫害を企て、ヤコブを殺し、ペテロも処刑しようとしています。しかし、御使いによって、ペテロは奇跡的に助け出されます。アグリッパは見張りの16名の番兵たちを処刑するのです。この裁きがアグリッパにも、もたらされます。

カイサリアのローマ劇場において、8月1日の皇帝誕生祝日の演説に立った時に、神の裁きが訪れます。彼は激しい腹痛に襲われ、5日間もだえ苦しんで、34才と言う若さで急死します。何と、祖父ヘロデ大王と同じく、内臓をウジ虫に食われて死んで行くのです。ここに大切な真理があります。主イエスは、アンティパスの為にも、またアグリッパの為にも十字架にかかり死んで下さったのです。実は救いは用意されていたのです。》

◎お知らせ

※第四主日礼拝は10月24日(日)午前10時から教会で行ないます。

